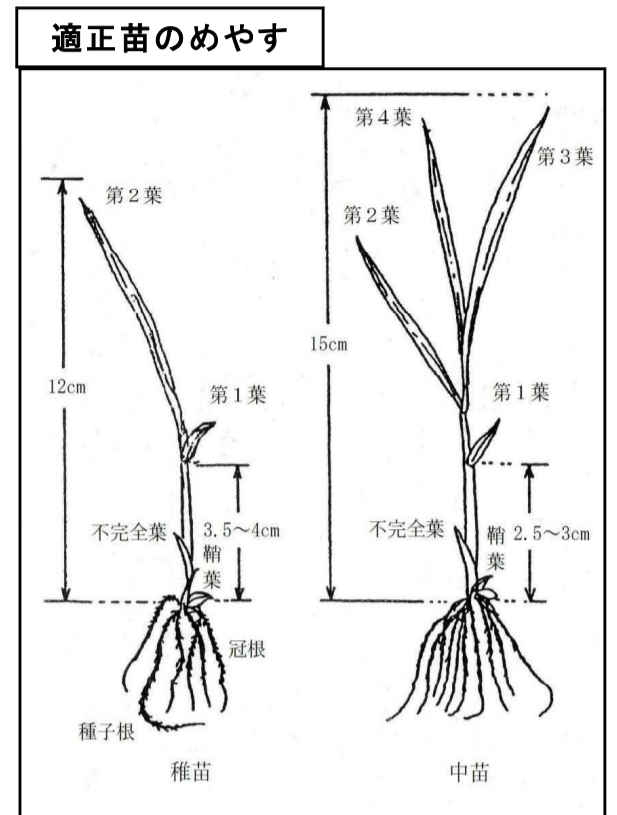


田植日に合わせた育苗と、ほ場の準備を行いましょう。

1 育苗後半の管理のポイント

・苗の生育に合わせた温度管理が重要です。体感温度に頼らず、必ず温度計で確認して管理をお願いします。

	緑化期	硬化期
期間	2～3日	11～13日 (無加温では上の日数以上となる場合がある)
温度	昼：20～25℃ 夜：15～18℃	昼：15～20℃ 夜：10～15℃
被覆・換気	・通常はラブシートのみ被覆 ・低温時や夜間はシルバーポリウ#80とラブシートの二重被覆で保温する。	・無被覆とするが夜間に低温が予想される場合はラブシートで被覆する。 ・硬化期の後半からは夜間もハウスを開放し、外気に慣らす。
水管理	・基本は1日1回かん水 (午前中早めのかん水が良い) ・ 過湿に注意! (根張りが悪くなるので、必要以上のかん水を避ける)	・水分状態を確認し、硬化期前半は1日1回(午前中)、硬化期後半は1日2回(朝、昼)を目安に十分かん水する。 ※床土の温度低下を防ぐため、午後3時以降のかん水は避ける
プール育苗の留意点	・緑化が終了し、第1葉が開いた頃に水を入れ始める。 ※根の伸びが悪い場合は、入水開始を遅らせる。	・プールに水を入れている時は、基本的に昼夜問わずハウスを開放する。



2 弁当肥

- ・田植え後の根つきを良くするため、田植えの4～5日前に、箱当たり窒素成分で1g相当の追肥をしましょう。
- ・プール育苗の場合は、水を落としてから散布してください。
- ・伸びすぎた苗では、障害が発生するおそれがあるので追肥を控えましょう。

散布例(1箱あたり)

- 例1: 「くみあい液肥2号」10mlを300～500mlの水に溶かして散布
※葉がヤケるのを防ぐため、散布後に軽く水をかける
- 例2: 「商品名: べんとう肥」を15～25g施用

3 土づくり

- ・気象変動に強い稲をつくる基本は土づくりです。JA等の土壌分析結果を参考に、土壌改良資材による不足成分の補給やたい肥等の施用による土づくりを行いましょう。

4 耕うん・代かき

[耕うん] ・根の量が生育や品質に大きく影響します。可能な水田は、作土深15cmを目標に作土を確保しましょう。
・一度に深く耕うんすると、一時的な地力低下のおそれがあります。1年に1～2cmずつ深くしましょう。

[代かき] ・代かきの終了時点から雑草の発生が始まります。代かきと田植えの間を長期間開けず、田植え後の除草剤を早めに散布できるように日程を検討してください。
・作業面積が大きく、代かきから田植えまで時間がかかる場合は田植え前の初期除草剤の使用も検討してください。(代かき後に初期除草剤を使用した場合、使用后7日間は田植えができなくなるので注意)

5 基肥

- ・ほ場の地力に合わせて施肥量を調整しましょう。
- ・こしいぶきは、低コスト栽培・収量向上を目指すため、安価な化成肥料での栽培を検討願います。

基肥施肥例

品 種	区 分	窒素成分量
コシヒカリ	基肥(分施)※	3.0～3.5 kg/10a
	基肥一発肥料	4.5～5.0 kg/10a
こしいぶき	基肥(分施)※	4.0～4.5 kg/10a
	基肥一発肥料	7.0～8.0 kg/10a

※分施とは、基肥と穂肥を分けて施肥する方法です

6 田植え

(1) 適期田植えの目安

コシヒカリ	平坦地	5月5日～5月15日
	山間地	5月10日～5月20日

こしいぶき等早生品種※	5月上旬(コシヒカリより前)
-------------	----------------

※田植えが遅くなると、収量の低下が大きくなります

(2) コシヒカリは、平坦地(稚苗)で60株程度、山間地(中苗)で70株程度植えを標準とし、好天日に植えましょう。

(3) 植え付けの深さは2～3cmの浅植えとし、1株当りの苗の本数は3～4本にしましょう。

(4) **活着促進と除草剤の効果安定のため、田植え後3～5日は3～4cm程度のやや深水とし、その後は2～3cm程度のやや浅水管理**で分けつ発生を促しましょう。(低温や強風時は5～6cm程度の深水で保温的な水管理をしましょう。)

<h3>『収量・品質向上! 糸魚川産米』</h3> <p>JAひすい「コシヒカリBLEコライス栽培」に取り組みましょう。</p>	お問い合わせ先	ひすい農業協同組合(営農部)	☎ 0120-640-184
		糸魚川NOSA Iセンター	☎ 0120-916-406
		糸魚川地域振興局農林振興部 (農業普及指導センター)	☎ 553-1906